續江戸月見

027
517
1

愛知縣立女子專門學校之印

027
577
1

愛知女專
第 117761 號
圖書

ちなに百萬翁月の句十五首を
つゝのてゝ江戸月又とい之玉集あを
看官無智愚人ゆゑ三十里ゆく
以之為一層うやく一面白ゝおもしを
出しとゝろ此霊山の物に為る我
追て古を知し人も千佛の一数
とゝのゝてうゝ一ゝてゝ人ゝ
白ゝとゝ月ゝ拾人拾ゝ拾ゝの又

ゝのゝあつゝんゝとゝをゝ
清秋公此居白ゝをゝて此のゝ為ゝ
ゝゝゝ為嵐ゝゝ為ゝゝ歌仙ゝと
ゝ犯ゝを花きゝゝ人ゝいゝゝゝ為俊
為ゝとゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ月
記月清集ゝゝゝ日記ゝと唯
毎ゝ為ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

とゝまりて殘澤月見と題せ
ることをもとめ

上方原叙

弘仙行

松ヶ丘の西地出の詩中より此月　清秋

秋すゝきの野の野の如を見て　上方原

簡の家ゆゝしきれて繼めれ字　翠如

淋程度金て面白ゝ音　笙和

野毎の泉水に泉ゆとゝ　萬玉

別く羊北の言地中　左文

藝あれば夢々良の家ゝ為をよきて　百丸
割符をうつぬ嵯乃志の免　曽嵐
孫をひく鞍音仁由　杉乃奥　漢長
疱瘡の形支て祈ひさゝ家　六全
名聞に流て命を切くゆく　英洲
田歩祈て教木の黄　奏白
大庭の為ゆ後小竜　建て
ゝふ人ちれ所の蜂乃巣　薪路

浮沼とぬ民八禍とゆさゝ紀　悠舎
敷立松の官軍て歩く　八亀
流也月ゝ鼈つゝふ　於ゝ　大椿
四手ゝ流ゝうゝぬゝ砂　翠如
宿ゝ乃ゝ乃田秤屋の紋ゝ毛　笙和
尺うゝてゆゝ弱ゝうゝ言　漢長
参ゝてゝゝ沼の汗をゆゝ立　一賀
ゝうゝ普請ゝ自ゝ檣　英洲

灌頂のきめ笠山うぶを明く　旨原
小童う扇くぶい市ゐ省　萬玉
廻文の家切もなく成るとも　曽嵐
對象を焦す栗り焼飯　五岸
旁間るるとるれも蕎を京寸蕎　笙味
川音更一　五三月の月　百丸
迂言をかくるゐ難も賞込んく　六全
三月るゐ稿を考る　肩癖　萬声

左傳尺四五十の地殘くるゐ　文奥
るれ　牧るる　象の　骨くを　子恪
作もゐ理の出く　猶な姉　悠舎
如意　ゐるる　優婆塞の袈裟　八竜
彫郎ハ誰もよりゐ　ゐの也　五岸
成汁るれ流る　遂四早　厳　執筆

良夜唫

名月や[illegible]の笹　翠如

[illegible]中月のうゑ行く稽古人　萬玉

名月や[illegible]　雨曉

霧ぬ我[illegible]岡中月の友　一賀

長安一片月
萬戸擣衣声

[illegible]月見ぶ　笙和

[illegible]月の月　玉雨

名月や盃のめりて月を見　雄跡

伏見の松の嘯や月の夜　故城

名月や鄙の鏘れを聞て寝ず　星河

山ちかくとゝまる人や月の夜　五岸

さよ更て実のあれ反やきの夜　古用

木槿は木ゝも月のあはれ哉　文魚

松の紙をやとる人や庭の月　亀付

蒼きしをそなへ出る月見哉　何文

春しるき人の心や松や月　悠舎

娼家で盃とる

枕時や中こゝろ吉原月と色　曾嵐

新月や中ぬれ手の歌　唐机

名月や四畳半の中の客　百轉

海棠ぬれて月の客　玉川

名月や黛ぬれて出る歌　漢長

名月や中ゝとゝまる庭をとり者　二暁

輕羅

名月の山を詠むに山の中の
二の町に庵して中月の宴
要をもとめを初て
あるべき品をえらんの月
酒さかな菜ぬるとかん事の肴
湖水風中に孔雀も来て川の月

病中吟

秋ふかし月を詠ぶ山の中

百川
六全
英洲
九交
百丸
沙月
存義

名月やあるのうらに鄰鐘の音
四の面をて月の光を稲むら
機を撫のうつ中り婦乃月
流れ〳〵西月の光うるすあり
漂枕の鳥と月乃流ぶ
影雲の尾をうるゝやうの月
星怨乃内儀更うち市婦のう
花雲の表むきあるり市婦の月

機夕
鵬羽
八亀
ふつき
左蓮
美旦
萬川
登羅

下伏のみ稀し起よるゝの月　千房
名月や酒さゝのみ手濃あり　蕭路
眠自淫て短冊書やらむの月　可因

神因の秋のみあるゝ行くゝ

我月を磨き上る武蔵居の那　閑江
水の鏡盃常見こゝ中ゝの月　秀民
武蔵野ゝ空ゝ玉祝ゝ月の月　大椿
星の住ゝ中ゝ机中ゝ婦のゝ　二溟

味噌なとす敷我の床中ゝ月のゝ　菊至
武蔵の月ゝ中ゝ寺月見ゝ　雪弓
江の島ゝ月ゝ中ゝ月見ゝ　菊丸
あゝゝ厨ゝ吟ゝ月ゝ月の月　烏雪
蕎麦蕎麦ゝ種ゝ玉ゝ月の中蕎麦　十暁
うゝ月ゝ月ゝ尾上の月ゝ中ゝ屋のゝ　百樹
名月ゝ中ゝ祝ゝ雀ゝ重ゝ紙　大路
淡月ゝ中ゝ月ゝ人ゝ月ゝ月ゝ　砾　勇夫

むさしの国中老く江戸のう　十旦
紅うゑ〳〵かいの児中月ノ門　株谷
四まく〳〵よりこゝろすれ〳〵の月　七樓
おうろ〳〵お花も芋ほるうゑんぶ　松下
笑思ひたちく〳〵ゆ中ノ郷の月　阜夫
舟競ふゝ神ゑ祭中ノふれる　子恰
繁ゆしく塩のうゝ白中その月　亀大
名月中折〳〵ゆゑ蟬ノ声〳〵　菊明

名月中價のきゝ紙きく〳〵　山苍
淀もゝうゑ棹さきものこ月毎　正川
鯉上うゝ志ハ一隈ゆ池のう　朱面
ゑゝ中のもも極楽中ノふの月　春樹
星の月連理ノ紅中なく〳〵柏　遊女 九重
松の中〳〵月ゑゝ夏中ゑゝ〳〵　常仙
志ゝ中ゑゝ四隣ゑゝゑゝ中ゑの月　立声
位ゑ一の偶ゑ佃ゆ角ゑゝ　渭村

きのふより行乱の山々ものこる　節苍

日のあるうちはきくの月見ぶ　小知

立寄も松うゑ下やうゑの月　楚江

世ゝうの杉間の雪や夕月　白鳥

名月や咳ひく人の名をあて　故村

扇風ゐうゑ八人遠ハ月も見ず　金洞

咳のこゑ行ゑはあるきもの有　有巣

名月や河ゑゑ玉の景あきし　祇烈

魚物ゑゑ風情あるゑ風ゑ

樹ゑの氣絶鯉狐異孔池の月　恐尺

名月や寂ぬ宿うゑ明石浦　買明

名月やきくもの人　驢馬　尤祖

拷雪の小屋ゑゑ中ゑの月　泉舎

名月や未ハ茂ゑ氣小松り　冬埜

名月や柳の一孔供ゑ雪　樓川

うゑ地酒人ゑうゑの月　在我

きくと梅の京中月又明　文磷
名月中空に月の雲の居る　春里
野分うらみ吹出せの月又ぶ　芙天
鳥うの鳥子岩中ゝの月を　文明
衣うれ中ゝ月ゝ人ゝうゝ月の色　泉之
ゝ月ゝ月を行ゝ月中月此方　温克

桂子月中落天香雲外飄
うゝ建長寺の僧坊にて一勝の句を乞

名月八五山の縁に月ぶ　亜提

名月中空に月の雲の居る　寛義
妻ゝ芙蓉ゝ月ゝ月の月　易難
ゝ月ゝ月ゝ岩ゝ月ゝ月ゝ月　雨友
ゝ月中月ゝ岩ゝ月ゝ月ゝ月　来我
芙蓉ゝ月又氣ゝ月ゝ布袋ぶ　南菊
月ゝ月ゝ八ゝ月ゝ月ゝ月ゝ月ぶ　五帆
深ゝ月ゝ月ゝ月ゝ月ゝ月ゝ月ゝ月　良雨
初汐ゝ月ゝ月ゝ月ゝ月ゝ月ゝ月ゝ月　在碩

八月の名は素月月見不　雞口

推敲く砧を傳へ一月の門　魚民

十六夜中亂れうく宵の雲　在轉

松の月ときも〻めりきぶ　東佐

秋き中ゆまこよひの月は事　保牛

寂てうとゝ〻ちあ〻人をふの月　秀国

名月や　猟師もりあ〻をとゝ　田人

名月を軒ゝ〻ゝ兎よ　蜘の糸　白頭

独雲月

おこの月東ゝ〻ハ絹の雲ゝ月ぶ　青原

名月ゝ〻の　信中　浦氏宅　仝